
ゆえ吉のジュースめぐり

氷砂糖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆえ吉のジユースめぐり

【Zコード】

Z9788M

【作者名】

氷砂糖

【あらすじ】

魔法先生ネギまーの一次創作です。

夏休みのゆえの一冊をかつてに想像して書いてみました。

クラスメートと会い、自分を思つゆえ吉。

気になつたら見てみてください。

今、私のブームは抹茶コーラです。

私の通っている学校・真帆良学園中等部。そこにはいつも面白おかしなジュースがあるです。

のどかやハルナにもいつもおすすめしているのですが、これだけはなかなか共感してもらえないです。

抹茶コーラにも黄金比がありますね、抹茶・コーラの比率が8・2が私はいちばん好きなのです。

そんな私の悩みは、トイレが近いことです。それもこれも、この学園のジュースが面白おいしそぎるからいけないんですよ。

さて、のどかは図書館ではぐれてしまつたし、ハルナは原稿が締め切り間近でエヴァさんの別荘に籠りきりなので、たまには一人でジースめぐりでもしてみましょつか。

……久しぶりに遠出して高等部の方のジュースでも飲みたいですね。

ビーンと弾いたつ自販機の最上段。

「おおー」これは

「強炭酸ザクロミルクですか」

先週インターネットを見ていた時に来週、真帆良学園で先行発売、と書いてあった強炭酸ザクロミルク。

中等部を探し回ってもなかったのに、「んとあるとほ……。さすが高等部ですね。

わざわざお金を入れて、

ドキドキ

「ど、届かないっ!?」

体をもつと伸ばせば届くかもです。

……フルフル……

びきり

「はい、あ、足がつってしまったです」

はい。足音が聞こえるです。知らない人にこんな無様な姿を見られるわけには

足が治らない。来てしまいます……ひあ！

「あ、楓さんですか。どうしてこんな処に」

「拙者せよ。お部屋で、じゅうからな。こんなところを回つてゐるで
いるよ。」

「そうなのでですか……」

「אָמַרְתִּי לְעֵדָה שֶׁאָמַרְתִּי לְעֵדָה」

「久しぶりにジュークス通りでもしてみよっかと思つたので」

「倒れている理由が分からないのでござるが……」

「あの強炭酸ザクロミルクを飲もうと思ったのですが、足がつってしまってですね。愚の骨頂です」

「それは仕方のないことだ」やうな。ええと、一これで」やるな

ピツ、
がたん

「あ、ありがとうございます」

「いやへい、ニギハトヒトナニド、アガルナ。では、アハツド、アガルナ。

背が高いっていいですね。私は、全てにおいて田も当てられぬ悲惨な状況。

あれ、あやしの焼餅にこるのせめも縛わんと押すわんでは……

「ミ、ミルク一本下さい」

「私はや、よ、五本」

私が見ればあなた方も十分羨ましいです。

「ううん、このジュースもミルクが入っているですね。

カシャリ、「ククク……ン。

「おおー。」

なんという爽快感。さっぱりしたザク口味に炭酸が効いていて、ミルクでほんのり後味が残る。新種の飲み物です。

「おーい。ゆえ吉ー。」

あれは、朝倉さんですね。

「ゆえ吉、ちょっと取材したいことがあるんだけど、いいかな？」

「いいですけど」

「ありがと。じゃあ、立ち話もなんだし、喫茶店行こう。おいらの

「よ

「何がいい？」

「カルピスコーヒーをいただくです」

「相変わらず面白いもん飲むねー」

「朝倉さんも一口どうしよう?」

「いや、今はいいや。んで、あえてせねギ先生の」とびつに黙つている。

「…」

「んぐっ、がはつがはつ、けほなほ。

「こきなりなにをいつですか」

「いやね、報道部で真帆良の学際の後から話題急上昇中のネギ先生の記事を作ることになつてね。まずクラスの人によろこび聞くことになつたの」

「それは朝倉さん自身が書くべきでしょう。」

「やつぱぱ面白そつな人から聞かないと

「どうこう意味ですか。まあ、確かにネギ先生は眞面目によくしゃべくれますし他の先生たちより頼りがいがあることもあります」

「あはは、バカレンジャーのコーダーらしい意見だね」

「尊敬もできることをどき子供っぽい一面を見せるのもまたいいと思つますが……って何を言わせらですか？」

「ははっ、ありがとなーゆえ。イイもんが書けそだよ」

「書かないで下さこですー」

「じゃねつ」

はあ、嵐のような人でした。

カルピスコーヒーがなんか苦いです。

苦いとか甘いとかは人の気持ちの持ちようによつて何とかなるよつなものなのでしょうか。こんどよつくり考へてみるです。

「あつ、ゆえゆえー」

「のどかではないですか。ほぐれたのによく見つけられましたね」「せつとき楓さんから」のあたりにいるつて聞いたんだー」

「さつきですね、中等部をこゝへら探してもなかつた強炭酸ザクロミルクを見つけたですよ」

「よかつたねー。ゆえ」

「のどか、今日は図書館はもういいのですか?」

「うん。残りの時間はヒガアちゃんのヒガド呪文の練習をしようと思つてゐる」

「じゃあやつするです。のどか、一緒にこきましょつ」

「プラクテ・ビギ・ナル・アールデスカット」

炎がいつも以上に強く燃え上がつた。

「 ゆえすーーい。調子いいね」

「 いいえ、この調子をいつでも出せるようにならなければ」

魔法を知り、ネギ先生に協力すると決めた今。

今日みたいな日常を守るため、みんな無事で帰つてこられるように修行をする。そんな時間。

楽しくもあり、協力することにやりがいを感じれる時間。

「 よっしゃー。原稿おわったー」

ハルナの声がきこえます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9788m/>

ゆえ吉のジュースめぐり

2010年11月14日01時18分発行